

験期間と開花率は併行的な関係があり自然開花期に接近するにつれそろって開花する。実用的に満足な開花を得るには自然条件で40日程度の低温日数が必要と考えられる。また、処理期により到花日数に差を生じたことは、花芽の発育と自然から受けた低温量の違いが、開花に影響したものと認められる。すなわち、処理期の早いものは花芽の休眠が深く、低温に感応する日数も少ないので到花日数が長くなる。反対に処理期の遅いときは、花芽の発育が進み休眠打破に必要な低温を伴うので、開花が促進的である。

以上のことから、処理期によって花芽の休眠の深さに差があり、自然の低温を受けて休眠のさめる時期は、1月下旬ごろである。今後は、花芽の分化期をはじめ自発休眠への移行期、早期促成における低温処理の条件についても明らかにする必要がある。更に、入室前における枝の水あげの有無については置床場所及び室温にもよるが、普通の屋内であれば1週間程度は水あげをしなくとも開花率には影響がなく、むしろ開花がわずかに遅延することが確かめられる。

秋田温室マスクメロン栽培の省力化

——栽培鉢の材質と大きさ——

保坂 勇・畠山順三

(秋田県農業試験場)

1 ま え が き

秋田温室マスクメロンは現在ベット栽培が主体であるが、床土の条件がほかの作物と大きく異なることや、土壌伝染性病害などの関係から1作ごとに床土の交換が行われ、その労力、床土量はマスクメロン栽培上大

きな阻害要因となっているため、温室マスクメロン栽培の省力化の第1報として栽培鉢の材質と大きさについて試験を行ったのでその概要を報告する。

2 試 験 方 法

第1表に示す。

第1表 試 験 区

項 目 試験の種類	試 験 区	1鉢当りの床土量	摘 要	床 土 の 種 類
栽 培 鉢 の 材 質	プラスチック鉢	ℓ		} 造 成 床 土
	発泡スチロール鉢	15		
	素 焼 鉢			
栽 培 鉢 の 大 き さ	10 ℓ 鉢	10	プラスチック鉢	
	15 ℓ 鉢	15		
	20 ℓ 鉢	20		

1 供試品種 白南遠

株(鉢)

2 播種期 6月20日, 6×3cm砂床点播

6 施肥量(1株, 鉢当り)

3 仮植期 6月27日, 12cm径素焼鉢植

秋田温室マスクメロン肥料(N 12 P₂O₅

4 定植期 7月15日(25日育苗)

12 K₂O 10) 基肥55g, 追肥1回目15g, 2

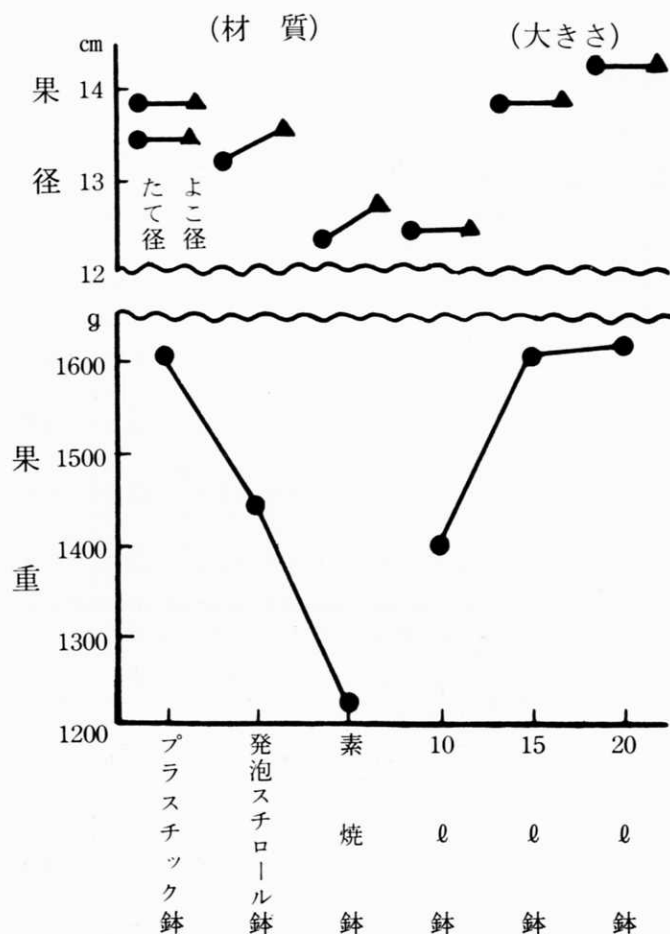
5 1区面積及び区制 1区7m², 2区制, 1区20

回目25g, 3回目5g, 計100g

試験の種類		試験区	調査月日		定植時 (7月15日)						定植後10日 (7月25日)					
			項目	茎長	展開 葉数	平均 節間長	最大葉		茎径	茎長	展開 葉数	平均 節間長	最大葉		茎径	
							たて	よこ					たて	よこ		
栽培鉢の 材 質	プラスチック鉢	cm	枚	cm	cm	cm	cm	cm	枚	cm	cm	cm	cm			
	発泡スチロール鉢	14.2	4.0	3.6	8.5	11.4	0.5	66.7	13.2	5.1	13.4	17.0	0.9			
	素焼鉢							65.2	13.3	4.9	13.3	17.6	0.9			
栽培鉢の 大 き さ	10ℓ鉢							59.4	12.7	4.7	12.9	16.6	0.9			
	15ℓ鉢	14.2	4.0	3.6	8.5	11.4	0.5	66.7	13.2	5.1	13.4	17.0	0.9			
	20ℓ鉢							67.6	13.3	5.1	13.5	17.0	0.9			

試験の種類		試験区	調査月日		定植後20日 (8月4日)						定植後30日 (8月14日)					
			項目	茎長	展開 葉数	平均 節間長	最大葉		茎径	茎長	展開 葉数	平均 節間長	最大葉		茎径	
							たて	よこ					たて	よこ		
栽培鉢の 材 質	プラスチック鉢	cm	枚	cm	cm	cm	cm	cm	枚	cm	cm	cm	cm			
	発泡スチロール鉢	178.9	25.0	7.3	18.9	29.2	1.1	182.1	25.0	7.3	19.9	30.5	1.3			
	素焼鉢	172.6	25.0	6.9	18.4	28.5	1.1	176.4	25.0	7.1	19.7	29.9	1.3			
栽培鉢の 大 き さ	10ℓ鉢	127.4	25.0	6.2	14.9	23.2	0.9	150.0	25.0	6.0	16.6	25.6	1.2			
	15ℓ鉢	164.6	25.0	6.7	18.0	26.6	1.0	166.9	25.0	6.8	19.4	27.3	1.2			
	20ℓ鉢	178.9	25.0	7.2	18.9	29.2	1.1	182.1	25.0	7.3	19.9	30.5	1.3			
栽培鉢の 大 き さ	20ℓ鉢	179.6	25.0	7.2	18.9	29.9	1.1	182.4	25.0	7.8	20.7	31.2	1.3			

試験の種類		試験項目	調査月日	収穫時 (9月28日)											
				交配月日	着果節位	果重 (比)	果 径		糖度	肉質	果肉の厚さ	ネ ッ ト		条溝の深 浅	皮色
							たて	よこ				高低	粗密		
栽培鉢の材質	プラスチック鉢	8月5日	13.6	1.604 (100)	13.8	13.8	16.5	良	4.4	高	密	浅	淡緑		
	発泡スチロール鉢	8. 5	13.4	1.447 (902)	13.2	13.5	16.2	良	4.1	高	密	浅	淡緑		
	素焼鉢	8. 6	14.4	1.252 (781)	12.3	12.7	17.0	良	3.9	低	密	なし	濃緑		
栽培鉢の大きさ	10ℓ 鉢	8. 6	13.9	1.395 (870)	13.4	13.4	16.3	良	4.1	少々高	密	なし	濃緑		
	15ℓ 鉢	8. 5	13.6	1.604 (100)	13.8	13.8	16.5	良	4.4	高	密	浅	淡緑		
	20ℓ 鉢	8. 6	14.3	1.615 (100.7)	14.2	14.2	17.0	良	4.7	高	密	深	淡緑		



第1図 栽培鉢の材質と大きさ別による果重と果径

3 試験結果

1 栽培鉢の材質について

供試鉢は素焼，プラスチック，発泡スチロールの3種類の材質を用いたが，第2表に示すように素焼鉢の

床土は常に乾燥気味で生育の伸びがよくなかった。これに対し，プラスチック鉢は保水性がよく，生育の前期，後期を通じて順調な生育を示し，これに次いで発泡スチロールの順であった。

収穫果実についてみると第3表に示すように，生育のよかったプラスチック鉢の1,604g，果重比100%に対し，発泡スチロール鉢は1,447g，90.2%で素焼鉢は1,252g，78.1%で約22%の果重差がみられた。

またプラスチック鉢は，発泡スチロール鉢に比べて生育のふれが少なく，ネットの発現や果実糖度(品質)においても優れた結果を示した。

2 栽培鉢の大きさについて

プラスチック製の10，15，20ℓ鉢の3種類では，第2表に示すように定植後の初期生育は各処理区とも大差がみられなかったが，8月14日の果実肥大期ころから10ℓ鉢に比べて15ℓ鉢と20ℓ鉢の生育が勝った。

収穫果実についても第3表に示すように10ℓ鉢1,395g，果重比87.0%に対し，15ℓ鉢1,604gの100%，20ℓ鉢は1,615gの100.7%であった。

以上の結果から温室マスクメロンの栽培鉢の材質では，プラスチック鉢が最もよく，また大きさについて，20ℓ鉢と15ℓ鉢の比較では，果実重量においても大差がなく，床土量と床土の交換労力からみると15ℓ鉢が実用性が高いものと考えられる。

連作砂丘地メロンの生産力低下防止について

田村保男・畠山順三・藤本順治・尾川文朗

(秋田県農業試験場)

1 ま え が き

秋田県の砂丘地帯における露地メロン(プリンスメロン)は，年々栽培面積が増加し，しかも産地では露地メロンに代わる収益性のある作物がみあたらないことから連作の傾向が強まってきている。

このようなことから，産地での露地メロンは作付当初ほど旺盛な生育がみられず果実の着果や肥大，品質

が劣るなど生産力低下が近年問題となってきた。

このままでは，近い将来，産地の衰退も予想され，そこで，産地維持を図るために5カ年連作を目途にした生産力低下防止について，昭和46年度から2カ年継続して試験を実施したのでその概要を報告する。

2 試験方法

1 供試品種 プリンスメロン